

# [第5回全体会議資料より] 今後の川部会の活動方針

## 1. 懇談会の活動経緯と運営方針について

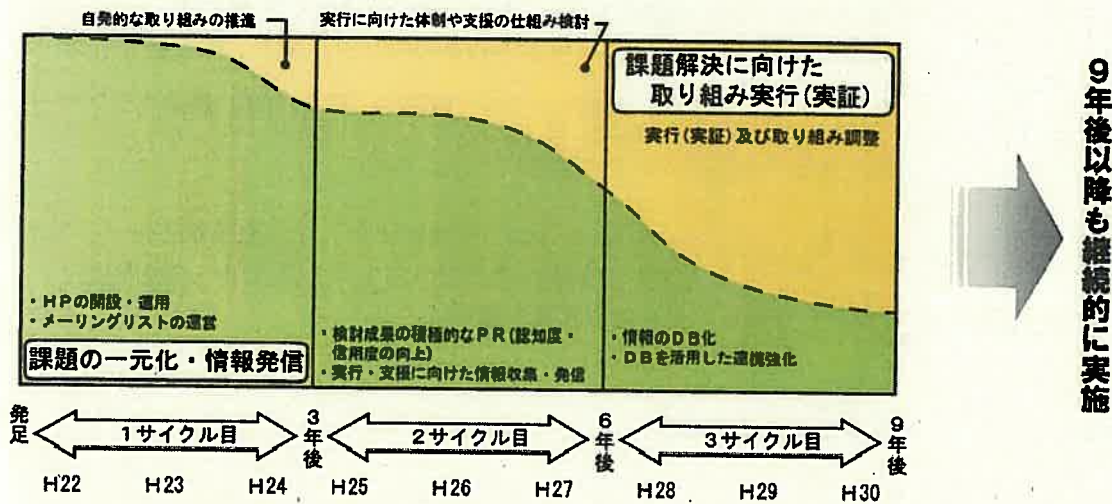
### 1.1 懇談会の活動経緯について

#### (1) 懇談会の目的

- 矢作川流域圏に関係する各組織のネットワーク化を図る
- 流域圏一体化の取り組み及び矢作川の河川整備に関わる情報共有・意見交換を図る

#### (2) 懇談会の運営方針

- 懇談会は、3年に1サイクルで総括を行いながら運営
- 来年度からは、3サイクル目の「課題解決に向けた取り組み実行(実証)」へシフト



### 1.2 川部会の3ヶ年(平成25年度～平成27年度)の活動成果と課題

- ・ 本川モデルは、現地視察や現地測量等に基づき検討箇所を選定し、モニタリングや試験施工が決定・スタートした。利害関係者として矢作川漁協との情報共有にも進展があった。総合土砂管理検討委員会や豊田市矢作川河川環境活性化プラン検討委員会等の検討状況について情報共有できた。  
⇒⇒ (課題) 意見交換やモニタリングを継続するため、成果の整理と役割分担の明確化
- ・ 家下川モデルは、現地調査による現状把握、各施設の関係団体を整理し、段差の解消について検討を開始した。「草の植え付け」「水田魚道」「越冬マス」「ブロック水制・堰(越冬場所)」などの設置効果について情報共有した。家下川湛水防除事業の意見交換により、改修工事計画の中に遊水池内の水深確保のための浚渫や越冬魚の待避計画が盛り込まれることとなった。風車式の揚水機を用いた長池水量確保についての提案があった。  
⇒⇒ (課題) 関係する管理者を交えた検討
- ・ 地先モデルは、活動団体へのヒアリング、アンケート調査を実施した。(仮) 専門家リスト、活動団体リストが作成された。  
⇒⇒ (課題) リストの定期的な更新

## 2. 部会の今後の3ヶ年の目標（例示）

活動にあたっては、「矢作川水系河川整備計画」に基づき、調和のとれた矢作川流域圏の実現に向け、学識者、関係団体、関係行政機関がそれぞれの役割について認識を持ち、互いに連携して諸課題の解決に取り組むこととする。

今年の活動における課題や意見から、今後3ヶ年の目標を以下のように例示する。

### ◆基本方針（例）

- ・懇親会メンバーが主体となって実行できる内容とする。
- ・「次世代に良好な環境を継承すること」を趣旨とした活動内容とする。
- ・今後3ヶ年はとりまとめの期間となることから、関係機関への意見・要請や議論のみといった活動はせず、成果のとりまとめ・公表を意識して主体的に活動する。
- ・検討成果は流域圏全体に対して広く情報共有、情報発信していくこととする。

### ○本川モデル（例）

（H28～H30）白浜工区等モニタリングの継続実施→（H30）全体成果のとりまとめ

（H27）加茂川棚田式魚道の施工→（H28～H30）魚道の効果のモニタリング、改良案の検討→（H30）段差解消手法としての評価

（H28～H29）保全エリアマップ作成の方針検討、データ収集→（H29～H30）保全エリアマップの作成→（H30）矢作川のあるべき姿についての検討

### ○家下川モデル（例）

（H28）関係管理者の整理、生物調査の実施→（H29）管理者リスト及び管理者区分マップの作成、家下川生き物マップの作成→（H30）過年度成果のとりまとめと他支川への展開検討

（H28）工事計画の確認→（H28～）生き物の状況を確認

### ○地先モデル（例）

（H28～H30）（仮）専門家リストの更新

### 3. テーマ別の活動目標（例示）

#### 3.1 本川モデル（例示）

##### 活動目標例

##### ① 白浜工区周辺のモニタリング

《H28～H30》白浜工区等モニタリングの継続実施

：現地調査を継続的に実施し、現状及び変化状況を把握する。

《H30》全体成果のとりまとめ

：これまでの調査成果を整理し、土砂、水位、地形、植生等の相互作用関係を把握する。

##### ② 加茂川棚田式魚道のモニタリング・評価

《H28～H30》加茂川棚田式魚道のモニタリング

：出水時の状況や生き物の移動状況等についてモニタリングを実施する。不具合等についてはWGにおいて改良案を検討する。（順応的管理）

《H30》段差解消手法としての評価

：モニタリング成果をもとに本手法を評価するとともに、矢作川における段差解消に対する今後の対応方法を検討する。

##### ③ 保全エリアマップの作成

《H28～H29》保全エリアマップ作成の方針検討、データ収集

：これまでの検討成果をもとに保全エリアマップで対象とする機能を抽出し、データを収集する。

《H29～H30》保全エリアマップの作成

：保全エリアマップを作成し、流域圏全体に展開する。

《H30》矢作川のあるべき姿の検討

：今後の矢作川のあるべき姿について検討する。

#### 3.2 家下川モデル（例示）

##### 活動目標例

##### ① 家下川における現況整理と情報発信

《H28》関係管理者の整理、生き物調査の実施

：河川、堤防、排水機場、公園、水門等の家下川における関係管理者および連絡先等を整理する。家下川の現時点における生き物の分布状況を整理するため、生き物調査を実施する。

《H29》マップの作成と公開

：管理者リスト、管理者区分マップ、家下川の生き物マップを作成し、情報発信する。

《H30》成果のとりまとめ及び他支川への展開検討

：過年度から検討事項を含めた全体成果をとりまとめ、他支川への展開を検討する。

##### ② 家下川湛水防除事業に関する対応

《H28》計画の確認

：家下川湛水防除事業における最終計画を確認・情報共有する。

《H28～H30》生き物への影響状況確認

：工事に伴う生き物への影響状況を確認する。

#### 3.3 地先モデル（例示）

##### 活動目標例

《H28～H30》リストの更新

：（仮）専門家リストを定期的に更新し、充実を図る。

## 平成 28 年度 川部会の活動予定

### 1. 川部会テーマ別の活動

7月

#### 【本川モデル】

- ・平成 28 年度の川部会 WG 計画について
  - ・白浜地区モニタリング調査（継続）
  - ・加茂川水門の魚道設置（継続）
- ・山川海の流域連携について
  - ・家下川湛水防除事業の情報共有（継続）
- ・平成 28 年度の矢作川直轄区間の河川事業
- ・矢作川の総合土砂管理における土砂供給実験

8月

#### 【本川モデル】

- ・豊田市矢作川河川環境活性化プランについて

#### 【家下川モデル】

- ・家下川湛水防除事業について

9月

#### 【本川モデル】

- ・加茂川水門の魚道設置について

#### 【家下川モデル】

- ・家下川

10月

#### 【本川モデル】

・

#### 【家下川モデル】

・

11月

【本川モデル】

- ・総合土砂管理の土砂供給実験の途中経過について

【家下川モデル】

- ・家下川

12月

【本川モデル】

- ・

【家下川モデル】

- ・

